

タブレット端末を用いた視線データによる心理 的レジリエンス推定

小谷 賢太郎

関西大学

システム理工学部機械工学科 教授

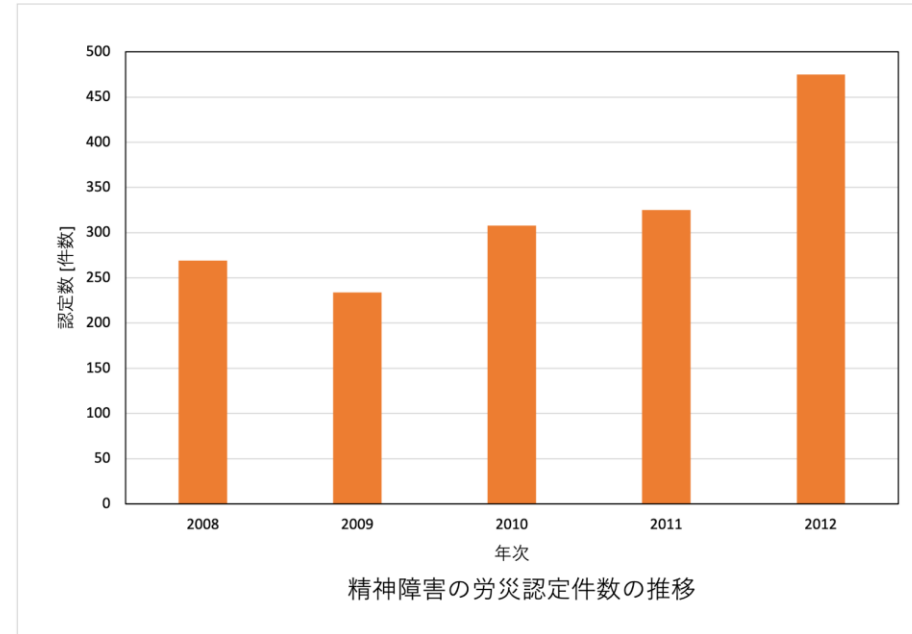
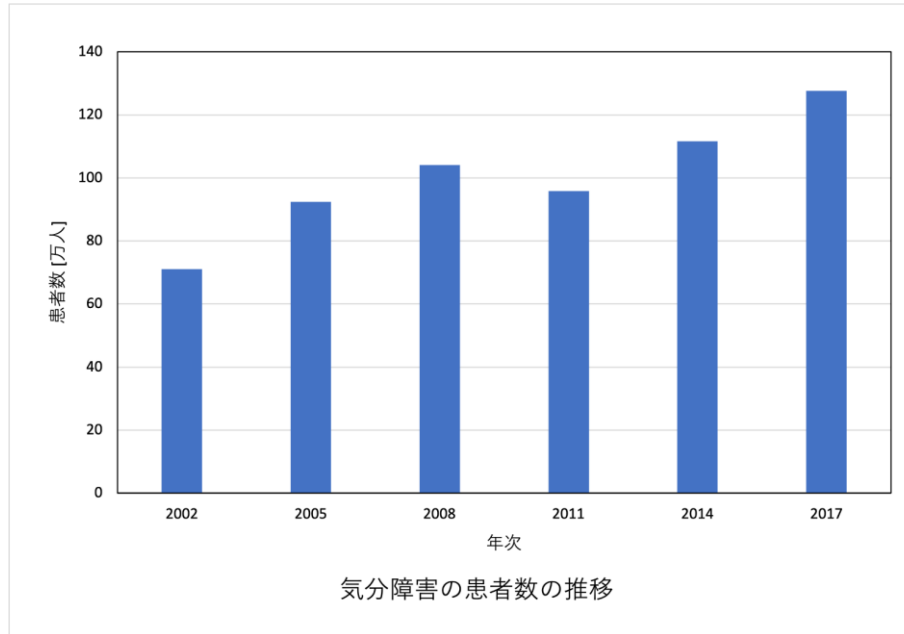
<https://researchmap.jp/read0049137>



関西大学
KANSAI UNIVERSITY

研究背景 メンタルヘルス不調とは

近年メンタルヘルス不調の予防が注目されている



- ・うつ病を代表とする気分障害の総患者数は近年増加傾向にある
- ・労災認定件数の増加に伴いストレスチェック制度が義務化された。

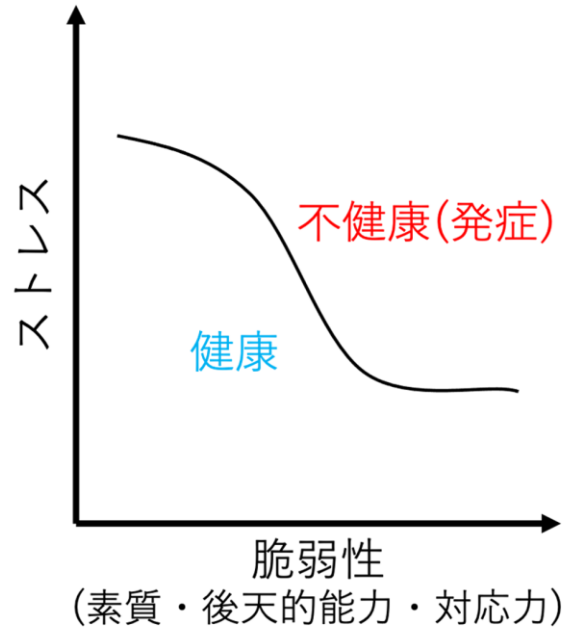
厚生労働省 こころの病気の患者数の状況

“<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/18/backdata/01-01-02-09.html>” (2022.01.09 閲覧)

ドクタートラスト ストレスチェックの義務化

“<https://doctor-trust.co.jp/law/law-2606.html>” (2022.01.09 閲覧)

研究背景 発症モデル



- 同じストレスを受けても発症するかは個人の素因によって異なる
- 素因を把握し、改善することができれば発症を防ぐことができる

近年「心理的レジリエンス」が注目されている

- ✓ 心理的レジリエンス
→ ストレスに対して、心理的な健康状態を維持する力

タブレット端末を用いた視線データによる心理的レジリエンス推定

【研究内容】

- ・画像視認時の視線のゆらぎをタブレットで計測し、心理的レジリエンスを推定するシステムを構築

【有用性】

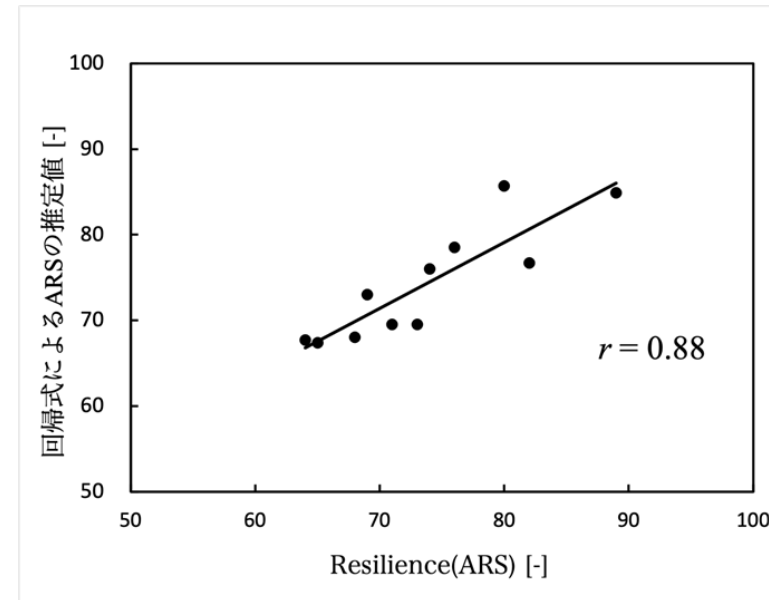
- ・生体反応（眼球運動）を利用するので詐病に強い
- ・繰り返し計測できるので、メンタルヘルス不調の予兆を把握し、早期対応することが可能

【計測風景】



大がかりな計測システム不要

【結果】



推定した「注意バイアス」と「心理的レジリエンス」との高い相関性を確認($R = 0.88$)

【今後の課題】

- 1) 心理的レジリエンス推定への本手法の有効性のさらなる確認。
(対象者層を広げた検証, 相関を高める工夫・改善)
- 2) 本手法の教育現場でのメンタルヘルスの変調チェックへの適用。
- 3) 職場でのメンタルヘルス不調者の予兆検知への応用検討。

【技術シーズの活用先】

- ・仕事や職業生活上でストレスとなっている労働者を事前に検知する必要がある産業医などが診断のためのベースとなる情報として利用できると考えています。
- ・小中学校, 高等学校における生徒, 児童のメンタルヘルスの変調などの早期発見に用いることもできると考えています。

【技術シーズの活用方法】

- ・医療分野 : 患者さんのメンタル不調検知。
- ・教育分野 : 生徒さんのメンタル変調検知。
- ・企業（職場） : 従業員のメンタル不調予兆検知。

※メンタル状態を検知する装置の開発に取り組んでおられる企業の方と一緒に進めたいと考えています。

本件 問い合わせ先

関西大学

研究推進・社会連携事務局

産学官連携コーディネータ 巽 俊二 (たつみしゅんじ)

E-mail x997995@jm.kansai-u.ac.jp

Tel 06-6368-0664

お声がけお待ちしております。